

秋田市小泉瀉公園に渡来した

ヤツガシラ *Upupa epopus saturata* の観察記録

高橋 一郎*

本邦においてヤツガシラ *Upupa epopus saturata* は、清棲幸保(1978)によれば、迷鳥、またはまれな旅鳥とされている。また、清棲幸保(1978)、清棲保之(1978)、樋口(1979)、野溝(1982)、渡辺(1983)、蜂谷(1985)などによれば、本種は、全国各地に渡来(図1)しており、しかも3~4月に単独で記録されることが多い。本邦における繁殖記録について、野溝(1982)は、1982年6月8日、長野県南佐久郡白田町において繁殖する1つがいを見出し、5羽の雛がふ化、4羽が巣立ち、同年8月8日時点で2羽の親と3羽の雛が無事であることを報じている。さらに、1986年、岩手県下閉伊郡田野畑村において、1つがい営巣し、4羽の雛が巣立った(遠藤私信)。長野県および岩手県の事例は、本邦における本種の繁殖生態解明に多大な貢献をなすものとする。

筆者は、1986年4月28日、秋田市金足鳩崎字後山52秋田県立博物館前の芝生で採餌中の本種を観察した。前述の清棲幸保(1978)ほかは、秋田県への渡来記録を記載していないが、これは、日本野鳥の会秋田支部編(1982)、秋田県野鳥の会編(1983)に続く県内5回目の記録である(表2)。全国的にみれば、近年特にまれな事例ではなくなってきたが、本種の渡来記録を明確にする意味で本稿をまとめた。

ご多忙にもかかわらず快く本稿の校閲をしてくださった秋田大学教育学部小笠原眞教授、貴重な情報を提供くださった岩手県宮古市の遠藤公男氏、および秋田県立博物館嶋田忠一学芸主任・高橋重勝技師、文献収集にあたり便宜をはかっていただいた秋田県野鳥の会会長高山泰彦氏に対し、心からの謝意を表したいと思う。

秋田県立博物館は、秋田市の北方約15kmの地点にあり、周囲は、比高約10mの丘陵、男瀉・女瀉の湖沼などを擁する県立小泉瀉公園になっている。博物館とその駐車場の隣接部は、よく刈り込まれた芝生であり、その外側は、コナラ・カスミザクラ・カシワなどの落葉広葉樹林、スギ・クロマツ・アカマツの植栽林である。

秋田県環境保健部自然保護課編(1977)、佐藤(1986)、筆者(未発表)は、同公園内で観察された鳥類についてまとめているが、これによると、森林性の鳥・水辺の鳥・水鳥などをあわせて35科122種をあげている。これは、他地域と比べて、決して少ない種数ではないことから、野鳥の訪れやすい環境であることを示している。

今回観察した個体は、県立博物館正面入口わきの狭い芝生上(図2)で確認された。注意深く接近すれば特に警戒する様子もなく、500mm望遠レンズの焦点距離内である約10mの位置で撮影(図3)できた。長くちばしをしきりに芝生内に差し込み、時々ミズと思われる動物をつまみあげては食した。芝生わきを往来する人の動きに驚くと、男瀉端のアカマツ林(図2中の②)や女瀉端のコナラ・カシワなどの落葉広葉樹林内(図2中の①)に退避するが、再び芝生上に降りたち採餌を始めた。4月28日、午後1時30分から午後4時30分までのわずか3時間ほどの観察であった。その間、本個体は、羽冠を逆立てることもなく、また鳴き声を発することもなかった。博物館職員(嶋田忠一氏、高橋重勝氏)の話によれば、博物館南側の芝生傾斜地で、4月26日~27日も観察されたという。なお、4月29日以後は出現しておらず、また県内で観察され

* 秋田県立博物館



図1 ヤツガシラの渡来地および繁殖地の分布

表1 本邦に渡来したヤツガシラの記録

No.	文献・観察者*	観 察 地	確認年月日	No.	文献・観察者*	観 察 地	確認年月日
1	樋口 (1979)	三重県尾鷲市	?	38	渡辺 (1983)	新潟県小千谷市	1983.01.11
2	清棲幸保 (1978)	北海道函館	1861	39	山村辰美 (1983) *	長崎県対馬佐護	1983.03-04
3	清棲幸保 (1978)	北海道札幌樺戸	1890.03	40	長谷川 博(1983) *	東京都島島	1983.03.20
4	清棲幸保 (1978)	三重県宇治山田市 (伊勢市)	1891.04.08	41	湊 秋作 (1983) *	和歌山県東牟婁郡元宮町皆地	1983.03.25
5	清棲幸保 (1978)	愛知県名古屋	1892.12	42	樋口広芳 (1983) *	東京都三宅島	1983.03.末
6	清棲幸保 (1978)	長崎県対馬	1894.12.05	43	八重山支部会員(1983) *	沖縄県西表島	1883.04.02-04
7	清棲幸保 (1978)	福岡県糸島郡元岡村	1919.03.30	44	中村 司 (1983) *	山梨県北巨摩郡白州町	1983.04.14
8	清棲幸保 (1978)	青森県北津軽郡中里	1924.04	45	田代睦夫 (1985) *	鹿児島県揖保郡山川町長崎鼻	1984.02.28
9	清棲幸保 (1978)	鹿児島県種子島	1925.03	46	田代睦夫 (1985) *	鹿児島県揖保郡山川町長崎鼻	1984.03.01
10	清棲幸保 (1978)	北海道釧路	1926.09.15	47	菊地康衛 (1985) *	沖縄県与那国島祖治	1984.03.11
11	清棲幸保 (1978)	沖縄県徳之島	1935.04	48	大館和弘 (1985) *	熊本県玉名郡横島干拓	1984.03.13
12	清棲幸保 (1978)	福岡県宗像郡福岡町	1936.04.08	49	丸藤好男 (1985) *	宮崎県日南市大字平野字影平	1984.03.20
13	清棲幸保 (1978)	徳島県徳島市	1949	50	市川竹虎 (1985) *	静岡県富士市浮島	1984.03.23
14	樋口 (1979)	三重県伊勢市	1955.08.14-18	51	福田 明 (1985) *	東京都小笠原村母島	1984.03.23
15	清棲保之 (1978)	山口県徳山市	1966.04.18	52	古賀優子 (1985) *	東京都八王子市堀之内南陽台	1984.03.29
16	清棲保之 (1978)	東京都皇居内	1967.04.02-05	53	古川 弘 (1985) *	新潟県上越市直江津港	1984.03.31
17	清棲保之 (1978)	島根県簸川郡大社町鷺浦	1967.03.26	54	蜂谷 (1985)	福島県原の町北町	1984.03.末
18	清棲保之 (1978)	石川県能登半島皆月海岸	1967.03.29	55	大丸奈津子・今田順子 (1985) *	山口県岩国市尾津町ハス田	1984.04.01
19	蜂谷 (1985)	群馬県群馬郡箕郷町	1970.03.29	56	萩谷 洋 (1985) *	東京都八王子市堀之内南陽台	1984.04.02
20	清棲保之 (1978)	神奈川県藤沢市鵠沼松が丘	1972.03.27	57	沖村義春ほか (1985) *	広島県大竹市谷尻	1984.04.08
21	清棲保之 (1978)	沖縄県西表島千立	1973.03.17	58	蜂谷 (1985)	福島県国見町徳江	1984.04.上旬
22	清棲保之 (1978)	島根県簸川郡大社町鷺浦	1973.04.01	59	田代睦夫 (1985) *	鹿児島県揖保郡山川町長崎鼻	1984.05.02
23	清棲幸保 (1978)	北海道利尻島	1973	60	蜂谷 (1985)	福島県福島市北沢又下台	1985.03.17-20
24	清棲幸保 (1978)	北海道浦河町	1973	61	蜂谷 (1985)	福島県福島市松川町浅川	1985.03.18,20
25	清棲幸保 (1978)	北海道根室	1973	62	蜂谷 (1985)	福島県南会津郡田島町	1985.03.31
26	清棲保之 (1978)	沖縄県西表島船浦	1974.02.25	63	末崎典助 (1986) *	新潟県柏崎市安政町	1985.04.15?-22
27	清棲保之 (1978)	長崎県対馬	1974.03.24	64	江頭晴司 (1986) *	長崎県南松浦郡奈良尾町	1986.03.20-26
28	清棲保之 (1978)	東京都八丈島八丈富士のお中道	1974.04.02	65	山口万寿美 (1986) *	茨城県高萩市高戸	1986.04.03
29	清棲保之 (1978)	千葉県船橋市谷津	1975.04.12	66	山口万寿美 (1986) *	茨城県高萩市君田小学校	1986.04.10
30	広野孝男 (1975) *	北海道知床半島羅臼温泉	1975.08.07-13	67	遠藤公男	岩手県下閉伊郡田野畑村	1986-
31	清棲保之 (1978)	青森県龍飛崎	1978.04.06				
32	渡辺 (1983)	新潟県小千谷市	1979.01.25				
33	蜂谷 (1985)	鹿児島県草垣島	1980.07?-08?				
34	蜂谷 (1985)	石川県油倉島	1980.07?-08?				
35	渡辺 (1984)	新潟県粟島	1981.10.25				
36	上利隆治 (1983) *	山口県萩市	1982.03.05				
37	野溝龍太郎 (1982) *	長野県南佐久郡白田町	1982.6.08-				

*印の記録は日本野鳥の会編『野鳥』による

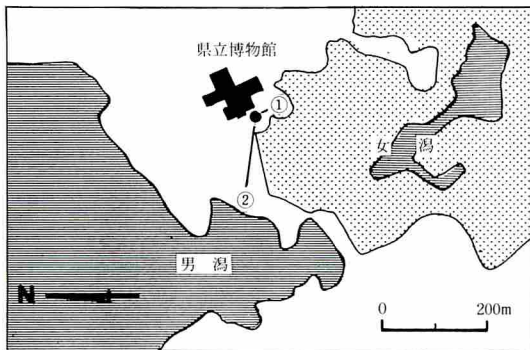


図2 博物館周辺略図

- 採 餌 地
- ① 広葉樹林
- ② アカマツ林
- 水 面 域
- ヨシ-マコモ

たという情報もない。

筆者は、県内で捕獲された本種2個体の体各部を実測する機会を得たので、その結果を表3に示した。ひとつは、男鹿市南磯で捕獲され、間もなく衰弱死した県内初記録の個体であり、現在、剥製にされ秋田県立博物館に保管(資料番号671-16-7)されている。さらにひとつは、4回目の記録になる大曲市角間川での個体であり、現在、同じく剥製にされ秋田県鳥獣保護センターに保管されている。

本邦における本種の観察記録は、表1に示したよう

表2 秋田県に渡来したヤツガシラの記録

	確認年月日	個体数	渡 来 地	文 献
1	1967.05.12	1	男鹿市南磯	秋田県野鳥の会編(1983)
2	1981?	1	秋田市下浜	日本野鳥の会秋田県支部編(1982)
3	1982.03.31	1	男鹿沖船上	秋田県野鳥の会編(1983)
4	1982.12.31	1	大曲市角間川	秋田県野鳥の会編(1983)
5	1986.04.28	1	秋田市金足	

表3 ヤツガシラの体測結果

個体番号	嘴峰	翼長	跗蹠	尾長	体重	保管場所
表1の1	48.6mm	145.6mm	23.8mm	97.3mm	—	秋田県立博物館
表1の4	48.1	146.4	23.0	107.8	*50g	秋田県鳥獣保護センター

* 秋田県野鳥の会編(1983)による



図3 県立博物館前の芝生で採餌中のヤツガシラ

に、1970年代以後、急激にその数を増している。野鳥観察者の数とその精度の高さによるものであると思いが、分布域の伸張拡大の可能性も考えられる。

要 約

1. 1986年4月28日、秋田県秋田市金足鳩崎字後山52 秋田県立博物館前において、ヤツガシラ *Upupa epopus saturata* 1 個体を認めた。
2. 本個体は、芝生地において、長いくちばしを土中に差し込み、ミミズと思われる動物をつまみあげては食した。
3. 秋田県における本種の観察記録は、男鹿市2回(1967, 1982), 秋田市1回(1981?), 大曲市1回(1982), そして今回と計5回である。

主な引用文献

- 秋田県環境保健部自然保護課編, 1977: 男潟・女潟の鳥類. 秋田県野鳥分布調査(6)(昭和51年度), 24-28.
- 秋田県野鳥の会編, 1983: ヤツガシラ三回目の記録. 秋田の野鳥, 15, 20.
- 蜂谷 剛, 1985: 福島市に現われたヤツガシラ. 福島生物, 1, 35-36.
- 樋口行男, 1979: 三重県の鳥類相. 三重県立博物館研究報告自然科学, 1, 35-36.
- 清棲保之, 1978: 増補改定版日本鳥類大図鑑補遺・総索引, 講談社.
- 清棲幸保, 1978: 増補改定版日本鳥類大図鑑 I, 講談社.
- 日本野鳥の会秋田県支部編, 1982: ヤツガシラを発見. 探鳥あきた, 8・9, 19.
- 野溝龍太郎, 1982: ヤツガシラの繁殖. 野鳥, 47, 10, 34. 日本野鳥の会.
- 佐藤武視, 1986: 小泉潟公園周辺の鳥類—1976年以降の記録から—. 秋田県立博物館研究報告, 11, 123-135.
- 渡辺 央, 1983: 信濃川の鳥類. 長野市立科学博物館研究報告, 18, 49-73.
- 渡辺 央ほか, 1984: 粟鳥とその近海の鳥類. 長野市立科学博物館研究報告, 19, 56-72.

Observation record of a Hoopoe (*Upupa epopus saturata*) in Koizumi-gata Park, Akita City.

Ichiro TAKAHASHI

Summary One Hoopoe (*Upupa epopus saturata*) was observed in the grassland in front of Akita Prefectural Museum, in 28 April, 1986.

This bird has fed small animals like earthworm under the grass, picking up by the long beak.

Observation records of this species were twice in Oga City(1967, 1982), one in Akita City(1981?), and one in Oomagari City(1982), total amount of fifth in Akita Prefecture up to the present time.